



WHA GROUP NEWS

WHAグループニュース <http://www.wha-group.com>

vol.26

2018年度WHAグループ記念祝賀会

先日、工業団地開発における WHA グループの 15 年にわたる継続的な成長と 30 年にわたる成功を記念し、アテネ ホテル バンコクにて政府関係者、ビジネス・パートナーや顧客企業の皆様にご出席いただいて盛大な祝賀会が開催されました。この会にはウッタマ・サワナヤナ工業大臣閣下のご臨席を賜り、弊社の経営陣とスタッフが多年にわたって優れた業績を上げ、タイの EEC 地域における工業部門の成長に貢献したという祝賀のお言葉をいただきました。



写真は、祝賀会を主催した WHA コーポレーションのジャリーポーン・ジャルコーンサクン・グループ最高経営責任者（中央左側）、ヘマラート社のデビッド・ナードン工業・国際担当グループ・エグゼクティブ（左端）、来賓のウッタマ・サワナヤナ工業大臣（中央右側）と WHA コーポレーションのアピチャイ・ブーンテラワラ監査委員会委員長（右端）。



右側の写真は、工業団地開発における WHA グループの 15 年にわたる継続的な成長と 30 年にわたる成功：（前列左端から）東部経済回廊のボジャーニー・アータロットピンヨ事務局長、ヘマラート社のデビッド・ナードン工業・国際担当グループ・エグゼクティブ、WHA コーポレーションのジャリーポーン・ジャルコーンサクン・グループ最高経営責任者、ウッタマ・サワナヤナ工業大臣、WHA コーポレーションのアピチャイ・ブーンテラワラ監査委員会委員長と工業省のバス・ラハージュン事務次官。



WHAグループの2つの記念すべき節目を祝う催しですが、2018年2月9日金曜日に高級ホテルのアテネホテルバンコクにて政府関係者、ビジネスパートナーや顧客企業の皆様を迎えて開催されました。



この記念式典は、WHAコーポレーション株式会社のジャリーポーン・ジャルコーンサクン取締役兼会長兼グループ最高経営責任者と、ヘマラート・ランドアンド・デイベロップメント株式会社のアピチャイ・ブーンテラワラ工業・国際担当グループ・エグゼクティブが司会を務め、出席者が700名を超える盛会となりました。
主賓のウッタマ・サワナヤナ工業大臣閣下は心温まる祝辞の中で、弊社の経営陣とスタッフが多年にわたって優れた業績を上げてタイのEEC地域における工業部門の成長に貢献したことを称賛しました。
閣下のこの祝辞に応え、ジャリーポーン氏とデビッド氏は、産業を振興して経済の発展を推進する政府の「タイランド4.0」政策を支持するということ、弊社の方針に揺るぎがないことと表明しました。
WHAグループは現在、特にEEC管理委員会が先日ラヨーンとチョンブリーにあるヘマラート社の9カ所の工業団地を航空と物流、ロボット工学とオートメーション、次世代自動車およびその他の対象産業向けの特別な工業ゾーンに指定したため、種類の新たな対象産業分野の準備を進めています。
また、今回の式典は、2つの画期的な節目を祝うと同時に、新しい時代の幕が開き、新たな旅が始まること、そして誠実さ、品質と献身というコアバリューに基づいてすべてのステークホルダーのために働き、大きな価値を提供し続けるという弊社グループ経営陣の確固たる誓約に変わりがありません。

去る2月9日、弊社はWHAグループの15年にわたる継続的な成長と、30年にわたる工業団地開発の成功という2つの記念すべき節目を祝う催しを開催しました。この祝賀会は2つの重要な記念日を私たちの心に刻むと同時に、弊社グループにとってテクノロジーとイノベーションの新时代的の幕が開き、手付か

WHAグループはタイ政府の「タイランド4.0」政策を全面的に支持しており、東部経済回廊プロジェクトの成功のために全力を尽くしています。弊社は新たな「ロジスティクス4.0」の時代に即して自らを絶えず適合させながら、自社の9カ所の工業団地により多くの投資家、特にロボット工学とオート

私たちは「ワシのように優れた眼」で今後を見通し、高所に立って入念に観察しつつ、手元にあるものにも注意を怠りません。2018年とそれ以降に向けての弊社のビジョンは明確かつ精密に描かれています。私たちは事業を発展させ、タイとこの地域の経済に貢献できるよう、慎重な行動によって新たな機会を探求し、未知の課題に対処してまいります。



ジャリーポーン・ジャルコーンサクン氏からのメッセージ
WHAコーポレーション株式会社取締役兼会長

ずの機会が待ち受ける新たな旅が始まって、すべてのステークホルダーに大きな価値を提供し続けるという弊社の誓約が改めて結ばれたことを示しました。
メーシオン、航空宇宙と物流、次世代自動車、バイオテクノロジーその他の新たなS字型産業分野の投資家を迎えるための準備を進めています。それと同時に、公共サービスと発電事業の供給能力を拡大し、環境に最も優しい条件でお客様にサービスを提供するとともに、将来のためにデジタル・プラットフォーム戦略への投資を行います。



ロジスティクス4.0時代に向けた 準備態勢の構築

「ロジスティクス4.0」を定義するための時は過ぎ去りました。現在、重要なことは、ロジスティクス4.0の時代を迎えるにあたって次の方策に集中することです。

なぜロジスティクス4.0が必要なのか？この疑問は、土地価格、建設コストや労賃がそれほど高くなかった頃には、繰り返し生じていたかもしれません。しかし現在、状況は一変しています。私たちが今、抱えている課題は「物流コストを下げるためにできることは何か？」ということです。

現代の技術が役に立つことは確かです。時にはトータルコストを半減させることもあります。しかし、ロジスティクス4.0の要求に応えるために、ロボットや新技

術で単純に人間を置き換えることはできません。私は、この分野での多年にわたる経験から、考慮すべき3つの重要な要因があると考へます。

第一の要因はインフラストラクチャです。海上運輸以外で最もコスト効率の高い輸送手段の1つは鉄道です。しかし、我が国の鉄道体系は物流事業を支えるのに十分なほど発達していないため、自動車とトラックに依存せざるを得ず、それがコスト高につながっています。

現在、タイ政府は完全に統合された物流を支える空路、海路、陸路（鉄道や道路）などの様々な輸送手段を改善するために大型プロジェクトへの投資を行っています。多くの人々は、これらのプロ

ジェクトに費やされる巨額の投資が本場に相応の価値があるものなのか疑問に感じています。

私がこの業界に関わり始めた頃、物流コストは18%程度でした。それが現在では約14%に低下しま

した。運輸インフラストラクチャ・プロジェクトが計画どおりに完成すれば、物流コストを12%に下げるといふ政府の目標は5年以内に実現可能だと考えられます。理想的には、国際的なレベルでタイの競争力を高めるために、物流コストを一桁台に抑える必要があります。

ロジスティクス4.0で2番目に重要な要因は、人工知能(AI)、ロボット、モノのインターネット、ビッグデータなどのテクノロジーではなく、人的資源です。

政府が推進する10種類のスーパークラスタを成立させて軌道に乗せるためには、対象産業分野の非常に専門的な技能を備えた労働力を必要とします。また、物流技能を備えた人材はあらゆる産業に必要不可欠であるため、専門的な技術者と同様に必要です。

先日、一流大学の講師から、開講予定の物流に関するコースの準備方法について助言を求められました。私は、様々な分野の物流企業が様々な異なる技能や知識を備えたスタッフを求めめる可能性があることについて説明しました。そして、大学では一般消費者、温度管理、電子商取引といったトピックに焦点を当ててはどうかと提案しました。これらの分野に関する討議から学ぶことができる基本的な概念は、様々なビジネスに簡単に応用できます。

何より重要なことは、コースが学生に批判的思考を奨励し、実際の業務に知識を応用する方法を教える必要があることです。

突き詰めて言えば、人的資源を開発し、労働力が必ず適格であるようにする必要があります。最近のニュースでは最低賃金の問題が取り上げられ、多くの人々がその内容を驚いています。私たちが焦点を絞るべきことは、10種類のスーパークラスタ・プロジェクト

トを実現する方法です。労働者の継続的な自己啓発を奨励すれば、1日当たりの最低賃金について心配する必要はありません。

私の顧客の1社で航空宇宙産業に属している会社が、職業教育を修了した人を雇用しました。信じられないかもしれませんが、この人の月給は、ほんの数年前で8万バーツに上がりました。これは、適切な技能と能力が伴えば、高い給与が得られることを示しています。

最後の要因は企業家精神です。私は海外からの起業家については心配していません。彼らはすでにこのことについてよく知っているからです。私がここで述べたいのは、タイの企業家、特に4.0時代に移行するには多額の投資を行い、企業家自身が大量の仕事を行なす必要があると考える、小規模ビジネスを営む企業家です。海外の企業家が事業を始めるのに、多額の資金は必要としないことをご存知ですか？その理由は、彼らが潜在的なパートナーを見つけ出し、協力し合ってビジネスを軌道に乗せようと努力するからです。

アリババがその良い例です。アリババについて研究すると、ジャック・マーは小規模な事業者が製品を販売するためのプラットフォームを作り上げたことが分かります。ジャックのビジネス・コストは従業員の賃金だけでした。

現在まで、アリババは自社で商品在庫を保有せず、数十万のサプライヤーに製品を提供させています。同社には、倉庫や物流システムは必要ありません。代わりに、アリババはすべての物流プロセスをサードパーティ企業に外注しています。

最後になりましたが、皆様にごお話ししておきたいことがあります。それは「変化を恐れるな」ということです。恐れるのではなく、変化に対処する方法を学んでください。新たな技術が実用化されると、生活が容易になり、ビジネスの生産性が高まります。大切なことは、その新しい技術を十分に生かすことです。

ジャリーポーン・ジャルコンサン 取締役会長
WHAコーポレーション株式会社



屋上太陽光発電 タイ工業部門における大きな新潮流

屋上太陽光発電により得られる電力は、タイを含む多くの国々において電力網からの電力より安価になっています。主要な推進力はスケールメリットです。ソーラーPVパネルとインバーターの世界的な需要が急激に拡大し、それに対応して大量生産が行われたことにより、価格の大幅な下落が生じました。

その恩恵を受けるのは、主に使用者です。通常、工場は日中の電力消費量が多く、広い屋根や屋上を有しています。概して電気代が高額な日中は、電力網からの電力の50%以上を屋上太陽光発電によってまかなうことが可能です。これは、通常は利益化する理想的な方法です。また、ソーラーパネルは日中の屋根の温度を効果的に下げて空調の必要性を低下させ、電気代のさらなる抑制につながることも知られています。

他の種類の発電設備とは異なり、太陽光発電は設置が容易で短時間で完了します。実際の設置作業は6〜8週間で完了します（ただし、許認可の取得と資材の調達にはこれより長い期間が必要ですが）。工場の既存の負荷や電体系の調整は不要です。電力網と連結された屋上太陽光発電の場合、発電された電力は電力網からの電力と統合されて工場の負荷要件を満たすため、信頼性に影響を及ぼすことなく、バッテリーへの蓄電も不要です。

太陽光発電システムは発電プロセスに燃焼や可動部品がないため、概してメンテナンスの手間があまりかからず、耐久性も高いのが特長です（現在は、ほとんどのソーラーPVメーカーは25年間の製品寿命を保証）。ただし、システムの性能と寿命を維持するには、定期的なパネルのクリーニングと綿密なシステム点検が必要です。

（WHAUPソーラー・屋上太陽光発電の導入に関する無料相談は061-394-2111または solarroof@wha-up.comまでご連絡ください。）

セントラル JD コマース社が電子商取引向けに WHA コーポレーションの倉庫を選択 タイとアセアンで電子商取引事業の拡大を目指す

セントラル・グループと、中国最大の電子商取引企業の1つである JD.com との合併会社が WHA メガ・ロジスティクスセンターで床面積 6,848 m² の倉庫をリース

バンコク、2018年1月17日タイにおける完全に統合された物流・工業施設ソリューションのリーダー企業である WHA コーポレーション株式会社（WHAグループ）は、タイ唯一の小売企業であるセントラル・グループと、中国最大の電子商取引企業の1つである JD.com の合併会社で、タイの電子商取引大手のセントラル JD コマース株式会社との間で倉庫のリース契約を締結したことを明らかにしました。

この契約は、バンナー・トラッド通り Km 19 にある WHA メガ・ロジスティクスセンター・チョンラハムピットットの倉庫（総床面積 6,848 m²）を対象とするもので、拡張可能契約です。同センターはバンナー・トラッド通り、テパラック通り、スクムビット通り（旧道）の3つの通りからアクセスできます。リースされる施設はバンコク中心部だけでなくスワンナプーム国際空港に近いという電子商取引と小売業にとって戦略的かつ便利な位置にあります。

この施設は、すでにこの地域に位置しているセントラル・グループの他の3つの事業部門、すなわちセントラル・デパート、セントラル・レストラン・グループ、セントラル・グループ・オンラインに加えて設けられるため、セントラル JD コマース社は資源を共有して運営効率を高めることが可能になります。リースされる倉庫は、電子商取引の運営に非常に適した広い荷役エリアを備えており、電子機器やファッション製品から乾燥食品まで多種多様な商品と製品に利用されます。

WHA コーポレーションのジャリーポーン・ジャルコンサン・グループ最高経営責任者は、次のように述べています。「セントラル JD コマース社と WHA メガ・ロジスティクスセンターにお迎えできることを非常に嬉しく思います。タイの大手小売グループと中国最大の電子商取引会社によるこの合併会社は、「タイランド4.0」政策に即して、タイにおける電子商取引とe-ロジスティクスの技

術と運営の発展を促進させる態勢が整っています。WHA はこの合併事業をお手伝いできることを喜ばしく思います。」

セントラル JD コマース・タイランド社のビンセント・ヤン CEO は次のように語っています。「WHA コーポレーションとの間で締結されたこのリース契約は、タイにおける弊社の電子商取引事業を進展させるための重要な一歩となるものです。便利な立地条件に恵まれた新しい倉庫を持ち、アセアンにおける電子商取引のハブとしてタイを活用することにより、弊社は国内及び地域の両方のオンラインショッピング事業を拡大できます。」

タイにおいて、WHA コーポレーションは注文建築様式の工場（BTS）や複数のテナントが入居する倉庫ファームなど、約220万平方メートルに及ぶ様々な物流施設を管理・運営しています。同グループは、今後3〜4年以内に施設面積を300万平方メートル以上に拡大することを計画しています。

ヘマラートで更なる飛躍を目指す企業

NIKKAKI (THAILAND) CO.,LTD.

各種化学プラントの提案・設計・施工・保守



創業80年のプラントエンジニアリング企業
高い技術提案力で日本品質を保証

化学蒸留メーカー大手の日本化学機械製造株式会社は1928年、大阪で産声を上げました。当初は、焼酎メーカー向けに蒸留機の製造販売を行っていましたが、当該技術が幅広い分野で活用できるのではないかと考え、化学プラント全般にわたって事業展開をしていくようになりました。それから80年。今では、日本の名だたる企業が製造する化成製品、塗料、樹脂、食品、薬品などさまざまな製品分野に当社の技術が活かされています。

タイ進出は、日本での取引先メーカーから寄せられた「日本と同水準の設備でタイでも生産を行ってほしい」という一件の相談から始まりました。当社としても海外展開は初めての体験。そこで可能性を探るため現地の市場調査に乗り出したところ、タイ国内には日系・外資・ローカルも含め蒸留プラントの分野で提案力のある企業が少ないことが分かりました。また、機械類のほとんどが現地調達可能で、コア部品等については日本から輸入ができることも判明。千載一遇のビジネスチャンスと判断し、現地法人を設立しました。今から約6年前、2012年11月のことです。

とはいえ、タイ市場では新参者の当社です。一つ一つが大型案件となるプラントの設置契約には、なかなかたどり着きません。そこで、まずは知名度を上げていこうと、地道な営業回りから事業をスタートさせました。プラントのメンテナンスや機械修理など、どんな小さな仕事でも積極的に請け負い、当社の存在感を広げていこうと努めました。こうして5年。だんだんと問い合わせや見積もりなどの依頼が舞い込むようになり、手応えをつかむようになりました。

当社の一番のセールスポイントは、プラント設置に際しての技術提案力です。顧客企業のニーズを十分につかみ、まずはこれを的確に図面に落とし、次に具体的に形にし、設備導入後、現場でどのように管理していくかも明らかにする。品質も日本水準と同等のものを持・保証していかなければなりません。こうした一連のスケジュールと品質管理を顧客に分かりやすく目に見える形で提案することのできるチカラ。それが当社の自慢でもあり、自信でもあるのです。

所得が向上し、豊かになっていくタイの市場。見渡せば私たちの暮らしているプラントで生産された化学製品があふれんばかり。生活に欠かせません。省エネや自動化に向けた視線も同様です。熱処理をどうするか。効率をどう求めるか。こういった関心事にも、蒸留から始まった当社の技術を応用することができます。一時期ほどの日系企業のタイ進出はピークを越えましたが、この地域にはまだまだ将来性があり、可能性があると私たちは見えています。

こうした中で、当社がこのほどスタートさせるのが洗浄液のリサイクル事業です。プラントから排出される洗浄液ですが、タイではほとんどが廃棄の対象となってきました。当社は日本でリサイクル設備の販売を行っており、ならば自分たちで、工場を設置することになりました。この時に出会ったのがヘマラート社でした。

豊富な工業団地群と工場のラインナップ。高速道路や港湾施設にも近く、交通は至便。スタッフの方々はいつも親身になってくださり、フレンドリー。そして何よりも安心なのが、そのプラント力です。当社の顧客の中にもヘマラート社の物件に入居される企業も少なくありません。安心して任せられることができました。イースタンシーボード工業団地にあるレンタル工場は2018年に操業予定です。

当社では2012年のタイ法人開設に合わせて、ベトナムにも現地法人を置きました。アセアンのハブであるタイを日本の本社に次ぐ第2の営業・技術拠点に、ベトナムを第2の製造拠点としてグローバルなネットワークを構築する考えです。拠点ごとのエンジニアの養成もすでに始まっています。ミャンマーなど周辺国の動向も視野に入れながら、産業全体をサポートしていきたいと考えています。

ベトナム、ゲアン省での投資家との交流フォーラム

WHAグループにとって、2018年の旧正月をベトナムで迎えたことは、非常に幸先の良い出来事でした。WHAコーポレーション株式会社取締役副会長兼ヘマラート・ランドアンドディベロップメント株式会社工業・国際担当グループ・エグゼクティブを務めるデビッド・ナードン氏は、第10回投資家との交流年次会議に出席するためにゲアン省ヴィン市を訪れました。この会議にはベトナムのヴォン・ディン・フエ (Vuong Dinh Hue) 副首相閣下も臨席されました。多数の国内企業と海外企業を引き付けるこの年次フォーラムでは、ベトナムにおける投資機会をさらに拡大する経済開発のための政府の取り組みに焦点が当てられます。

今年度の会議において、WHAヘマラート社はベトナム政府より投資登録証明書 (IRC) を正式に受領し、同国に投資するための免許を取得しました。これは、2016年に開催された同じ投資家会議においてゲアン省およびその投資機会を発見したタイの大手工業団地開発会社にとって、重要な一里塚と言えるものです。2016年の会議から2年も経



WHAヘマラート・インダストリアルゾーン1の起工式が2018年3月10日にベトナムのゲアン省ギートウアン共同体内において開催されました。同式典にはベトナムのヴォン・ディン・フエ (Vuong Dinh Hue) 副首相閣下と在ベトナム・タイ大使館のマノップチャイ・ウォンパクディ大使閣下が臨席されました。

WHAコーポレーション株式会社取締役副会長兼ヘマラート・ランドアンドディベロップメント株式会社工業・海外担当グループ・エグゼクティブを務めるデビッド・ナードン氏によると、今後数年間にわたり実施される拡張事業の総面積は3,200ヘクタールにおよぶ可能性があります。同氏は取締役会のメンバーや経営陣と共にゲアン省を訪れ、200名の来賓が参加した起工式を主催しました。

ナードン氏は式典での挨拶の中で、製造業とサービス業を1か所にまとめ、経済的、社会的なメリットを地域社会や環境に幅広くもたらす、この称賛に値するプロジェクトに協力を惜しまなかったゲアン省政府、ドンナム経済ゾーン関係者とギートンおよびギートウアン共同体の関係者に感謝の言葉を述べました。

498ヘクタールの敷地面積を占め、初期投資額が1億米ドルに及ぶフェーズ

1の工業用地は、今年の第4四半期までに電力、最新の通信設備や公共サービスが完全に利用可能となり、早期に契約を結んだ顧客に提供される予定です。また、品質が高く、優れた設計が施された面積500ヘクタール、1万平方メートルの賃貸工場も建設され、投資家に提供されます。

今回の起工式はまさに、この画期的なプロジェクトを実現させるために過去2年間、休むことなく働いたすべての関係者に、仕事への大きな誇りと深い達成感をもたらすものとなりました。



過しないうちに、1億米ドルの初期投資が行われるゲアン省のWHAヘマラート・インダストリアルゾーンの起工式が開催されました。このプロジェクトは今後数年にわたって開発が行われ、総面積は3,200ヘクタールに達する見込みです。

また、電力、水道およびその他の公共サービスやインフラストラクチャを提供するWHAのビジネスハブであるWHAユニティリテイーズ・アンド・パワー (WHAUP) 社も、WHAヘマラート・インダストリアルゾーン1-ゲアンで公共サービスを提供するためのIRCをベトナム政府より付与されました。

ナードン氏は、ベトナムにおけるWHAの初めてのプロジェクト立ち上げに際して寄せられた多大な協力と支援について、ゲアン省政府およびその他のパートナーに感謝の意を表して次のように述べています。「私たちはベトナムの発展、堅固な経済の開発、製造拠点の強化、およびアジアとその周辺の主要市場へのゲートウェイとしての位置付けに参加できることを光栄に思います。WHAヘマラート・インダストリアルゾーン1-ゲアンは、このベトナムとの経済開発パートナーシップに弊社が貢献するための第一歩です。私たちは、双方にメリットをもたらす成功を、力を合わせて継続的に実現できる日を楽しみにしております。」



ヘマラートニュースダイジェスト

WHAグループ

BOIがCLMV諸国の代表団を率いてヘマラートESIEを訪問



投資委員会 (BOI) のタイ海外投資奨励課、タイ国際協力機構 (TICA) と日本国際協力機構 (JICA) は、カンボジア、ラオス、ミャンマーおよびベトナムの代表団を率いてヘマラート・イースタン・シーボード工業団地 (HESIE) を訪れました。一行はヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社のデビッド・ナードン工業・国際担当グループ・エグゼクティブによる出迎えを受け、工業団地内を見学しました。この特別な訪問は「AECおよびその後に向けたメコン河流域諸国の投資奨励に関するワークショップ」の一環です。

日本の千葉県の投資家がESIEを訪問



潜在的投資家から成る日本の千葉県の代表団がビジネス目的でイースタン・シーボード工業団地 (ESIE) を訪れました。千葉県の経済振興課に率いられた同代表団は、WHAコーポレーション株式会社の子会社であるヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社のラダ・ロジャナウィライウッド営業担当副社長 (右端) による歓迎を受けました。

バヤップ大学の学生がESIEとHESIEを見学



バヤップ大学の会計・金融および銀行取引学部の学生と教授の一行が先日、東部経済回廊 (EEC) を訪問し、WHAコーポレーション株式会社のシヤパス・チャンタチャイロート法人マーケティング担当取締役 による温かい歓迎を受けました。一行はイースタン・シーボード工業団地 (ラヨーン) とヘマラート・イースタン・シーボード工業団地 (HESIE) の総合的な見学を行って工業団地の開発と各種サービスを実際に見て回り、海外投資の機会と課題について学びました。

BOIに率いられた各国の投資家70名がWHAグループのヘマラート工業団地を詳細に見学



タイ投資委員会 (BOI) が主催した見学プログラムにより、中国、日本、インド、米国および欧州からの投資家の一行がタイの東部経済回廊 (EEC) にあるイースタン・シーボード工業団地 (ESIE) とヘマラート・イースタン・シーボード工業団地 (HESIE) を訪れました。この大規模な見学ツアーは、投資機会の探索、国内外の企業の成長度と事業運営の視察、今後の工業を支える WHA グループの能力の紹介を目的としたものです。今回の訪問の中で、一行はヘマラート工業団地の廃水処理施設と、最新式のサプライチェーン施設を備えたケリー・ロジスティクス社の社屋も見学しました。

写真は、海外からの投資家一行を出迎えたWHAコーポレーション株式会社のシヤパス・チャンタチャイロート法人マーケティング担当部長をはじめとする同社の経営陣。訪問間には東部経済回廊にあるESIEとHESIEをまわって見学しました。

WHAUP

CCE社とWMS社が産業廃棄物発電所への廃棄物供給契約を締結



日本のDOWAエコシステム・グループの1社であるウェイト・マネージメント・サイアム (WMS) 株式会社は、チョンブリ・クリーン・エナジー (CCE) 株式会社が開発する8.63 MWの産業廃棄物発電所に産業廃棄物を供給する独占契約を締結しました。2019年第4四半期に予定されている同発電所の商業運転開始日より、WMS社が周辺地域から回収する約10万トンの産業廃棄物が同発電所に送られ、最先端の焼却プロセスと高度な排出ガス制御システムを通じてクリーンな電力に変換されます。CCE産業廃棄物発電所ではワールドクラスの設計を採用し、廃棄物をグリーン・エネルギーに変換することにより、社会と環境のために長期的に持続可能なソリューションをWMS社と共に提供します。

WHAユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社のウィサート・チュンワタナ最高経営責任者 (中央左側)、日本のDOWAエコシステム・グループ、WMS社のスガワラ・ヨシアキ社長 (中央右側)、グローウ・グループのガート・メーレンマン事業開発担当上級副社長 (左端) およびスズ社のジェローム・ル・ボーギュー支社長 (右端) は先日、WHAユーティリティーズ・アンド・パワー社の本社において産業廃棄物発電所への廃棄物供給契約書に署名しました。

チョンブリ・クリーン・エナジー社の産業廃棄物発電所建設を丸紅株式会社が開始



WHAユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社のウィサート・チュンワタナ最高経営責任者 (中央右側)、グローウ・グループのブレンダン・ウォータース最高経営責任者 (左端)、スズ・アジア社のエティエンヌ・フルーアン再利用・回収担当執行取締役 (右端) および日本の丸紅株式会社の根岸邦夫プラント・プロジェクト部長 (中央右側) は先日、チョンブリ・クリーン・エナジー (CCE) プロジェクトの正式な建設開始を祝いました。発電容量8.63MWのこの産業廃棄物発電所プロジェクトは、タイのチョンブリ県にあるヘマラート・チョンブリ工業団地内に位置しています。同発電所は2019年末までに営業運転を開始する予定です。この代替エネルギー・プロジェクトはWHAユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社、グローウ・エナジー株式会社とスズ社の合併事業で、日本の大手商社である丸紅株式会社がEPC事業者となっています。この発電所では、日本のJFEエンジニアリング株式会社が提供する廃棄物焼却技術を用いて発電を行います。

WHAUP社がヘマラート社の工業団地で天然ガス供給パイプラインおよび小売事業プロジェクトを開発



WHAイースタン・シーボードNGD 2株式会社のデビッド・ナードン取締役 (中央左側) は先日、チョンブリ県シラチャ地区にあるヘマラート・イースタン・シーボード工業団地2において、PTT株式会社との間で天然ガス売買契約を締結しました。契約締結式にはWHAユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社 (WHAUP) のウィサート・チュンワタナ最高経営責任者 (左から4人目) も出席しました。WHAUP社は、ガルフ・エナジー・ディベロップメント株式会社の協力のもとに、ヘマラート社の工業団地6が所産天然ガス供給パイプラインおよび小売事業プロジェクトを開発する権利を取得しました。運営はガルフWHA MTナチュラル・ガス・ディストリビューション株式会社が担当します。この協力関係は、タイの工業部門におけるエネルギー管理の強化を目的としたタイ政府の天然ガス自由取引政策に即したものです。

CSR

WHAグループがチョンブリFCを後援。11年連続



WHAコーポレーション株式会社の子会社であるヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社は、チョンブリ FC の後援を継続することを決定しました。同クラブの後援はこれで11年目となります。この後援は、地域社会との関わりにおける弊社の積極的な役割を示すもので、青少年の健全な育成と連帯感の醸成のためにスポーツを振興することを目的としています。ヘマラート社のスヤ・パオブントーン総務部長 (左端) は、チョンブリ FC の関係者との後援企業・団体が出席した記者会見の場で、この後援の更新を発表しました。

CSR

WHAグループがノン・スア・チャン託児所に新しいウォーター・サーバーを寄贈



WHAコーポレーション株式会社の子会社であるヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社は先日、チョンブリ県にあるノン・スア・チャン託児所にウォーター・サーバーを寄贈しました。この新しいウォーター・サーバーは、ヘマラート社のスヤ・パオブントーン総務部長が同託児所を訪れて贈呈を行いました。これにより、地域の子供たちははる過された清潔な水を簡単に利用できるようになります。

WHAグループが有機木酢プロジェクトを開始バン・カオ・ヒン学校で



WHAコーポレーション株式会社の子会社であるヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社のスヤ・パオブントーン総務部長 (右から3人目) は、弊社を代表してバン・カオ・ヒン学校を訪れ、有機木酢用の糞を作るための寄付金3万5,000バーツを贈呈しました。作られた木酢は、害虫を駆除して土壌の質を改善する化学薬品の代替品として用いられます。このCSR (企業の社会的責任) 活動により、地域住民の間で環境問題に対する意識が高まっています。

WHAグループがバン・カオ・ヒン学校の温室プロジェクトを支援



WHAコーポレーション株式会社の子会社であるヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社のスヤ・パオブントーン総務部長 (左から4人目) は先日、弊社を代表してチョンブリ県のバン・カオ・ヒン学校に寄付金を贈呈しました。この寄付金は、高品質のアンブの購入を支援するためのものです。このオーデオ機器は交通規則、緊急避難手順や公共の安全に関する知識を地域住民の間に広めるための講習会や各種活動を実施する際に使用されます。

WHAグループがブルアク・デー病院に新しいトレーニング用具とフィットネス・マシンを寄贈



WHAコーポレーション株式会社 (WHA グループ) の子会社であるヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社のスヤ・パオブントーン総務部長は、弊社を代表してラヨーン県のブルアク・デー病院に10万バーツの寄付金を贈呈しました。この寄付金は、トレーニング用具とフィットネス・マシンを備えた機能回復訓練室を作るためのものです。WHAは、地域住民の間に健康と健全なライフスタイルを普及させるために同病院が実施している活動を支援しています。

WHAグループがノン・ヤイ警察署の新しいオーディオアンブ購入を支援



WHAコーポレーション株式会社 (WHA グループ) の子会社であるヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社のスヤ・パオブントーン総務部長は、弊社を代表してチョンブリ県のノン・ヤイ警察署に寄付金を贈呈しました。この寄付金は、高品質のアンブの購入を支援するためのものです。このオーディオ機器は交通規則、緊急避難手順や公共の安全に関する知識を地域住民の間に広めるための講習会や各種活動を実施する際に使用されます。

カスタマーニュース

多田製作所がEECの土地売買契約を締結



日本に本拠を置く株式会社 多田製作所の子会社であるタダ (タイランド) 社は先日、東部経済回廊 (EEC) に位置するラヨーン県のイースタン・シーボード工業団地 (ESIE) の土地購入契約締結式を開催しました。この土地に建設される新工場は革新的な技術を駆動力とするもので、自動車業界と電子機器業界で高まりつつある需要に応える品質の高い製品の製造拠点としての役割を果たします。

STT社が土地購入契約を締結HESIE 2に新工場を建設



表面処理加工と潤滑技術を専門とする大手企業、STT 株式会社は、WHAコーポレーション株式会社の子会社であるヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社が開発したヘマラート・イースタン・シーボード工業団地2 (HESIE 2) に新工場を建設するための土地購入契約を締結しました。新たに建設される工場は東部経済回廊 (EEC) に位置するため、日本に本拠を置く同社がこの地域で増えつつある様々な業界の顧客に多種多様な高品質の潤滑剤製品を提供することが可能になります。

タダ (タイランド) 社が新工場の起工式を開催



自動車、電子機器などの業界で使用される高品質の合成樹脂、ポンプおよびその他の製品のメーカーであるタダ (タイランド) 社は先日、WHAコーポレーション株式会社の子会社であるヘマラート・ランド アンド ディベロップメント株式会社が開発し、東部経済回廊 (EEC) に位置するイースタン・シーボード工業団地 (ESIE) において、新工場の起工式を開催しました。日本の画期的な最新技術を導入して自動化される新工場により、同社はこの地域における製品需要の拡大に対応することが可能になります。

マツダが生産能力を増強ESIEでエンジン機械加工工場を新設



マツダ株式会社の関連会社であるマツダ・パワートレイン・マニュファクチャリング (タイランド) 株式会社 (以下「MPMT」) は先日、東部経済回廊 (EEC) に位置するチョンブリ県のイースタン・シーボード工業団地 (ラヨーン) において新しいエンジン機械加工工場の開所記念式を開催しました。この新工場により、同社の「SKYACTIV」エンジンの生産能力は年間3万基から10万基に増強されます。今後、MPMTは「SKYACTIV-G 2.0」エンジンを生産し、タイのみならずマレーシアとベトナムにあるマツダの組立工場に供給します。